

カンボジアにおける私立病院での国際看護学実習

A report of International Nursing Practice at a private hospital in Cambodia

○辻村弘美¹, 中野真由子², 吉田貴康², Kep Kanika²

Hiromi Tsujimura¹, Mayuko Nakano², Yoshida Takayasu², Kep Kanika²

1 群馬大学大学院保健学研究科, 2 サンライズ ジャパン ホスピタル プノンペン

1 Graduate school of health sciences, Gunma University, 2 Sunrise Japan Hospital Phnom Penh

【はじめに】

本学看護学専攻では、「多様な地域社会の中で、グローバルな視野に基づく自己開発能力と、看護の専門性を高める意欲を持ち、人々の健康に貢献する人材育成」をディプロマ・ポリシーとして掲げており、グローバル社会で活躍できる人材育成に取り組んでいる。4年次の看護学総合実習において選択必修科目として学生に海外実習の機会等を提供して、その教育を行っている。カンボジアの私立病院と本学との交流は、2022年より開始となったが、2022年は新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン実習となった。2023年は対面での1週間程度の実習が可能となり、実習や学生の学びを振り返ることで、今後の海外実習の展望について検討したいと考えた。

【方法】

1. 実習期間 2023年9月24日～9月30日
2. 参加者 看護学専攻4年生4名
3. 場所 Sunrise Japan Hospital Phnom Penh (SJH)
4. 実習目的
 - 1) 日本の医療を取り入れたカンボジアの病院で提供される医療・看護について理解する。
 - 2) カンボジアにおける異文化看護の実際を知る。
 - 3) 対象者の安全を守るための工夫やシステムを知る。
 - 4) 対象者に対してチームで行われている医療や看護を理解する。
5. 実習内容
 - 1) 事前準備
 - (1) 事前オリエンテーション (2023年8月18日)
オンラインでSJH実習指導者からの説明
 - ①臨地実習担当者紹介、②事前学習課題提示、③実習の日程案とその調整
 - (2) 事前学習課題
 - ①カンボジア基本的情報、②カンボジアの歴史と医療情勢、③日本とカンボジアの医療の違い等
 - (3) 海外危機管理講座 (2023年9月1日)
本学グローバル・イニシアティブ・センターの教員より、安全管理の基本や渡航前の準備や実習中の注意点、海外保険の使い方についての説明
 - (4) 直前オリエンテーション (2023年9月19日)
持ち物や手続きの最終確認、体調管理等の指導
 - (5) その他
航空券と宿の手配、VISA申請、旅行保険、外務省海外旅行安全情報の確認や同省「たびレジ」の登録
 - 2) SJHでの実習 (表1)
言語は事前オリエンテーションでは日本語、現地では英語と日本語を使用し、実習指導者や外来医師等が状況に応じて通訳を担当した。
6. 倫理的配慮
本実習に関わる内容については、個人が特定されないように記載し、学会等で報告する旨を実習施設に

はメール、学生には口頭で伝えて同意を得た。

表1 実習スケジュール (以下日程前後が移動日)

日時	主な実習内容
9/25	・クメール語講座 ・オリエンテーション、病院ツアー ・内科・脳外科病棟の医師回診に同行
9/26	・内科・脳外科病棟での実習 (申し送り、清潔ケアなどに参加) ・外来業務の見学 ・カンボジアにおける公衆衛生の講義
9/27	・学生による英語での自己紹介 ・内科・脳外科病棟での実習 ・外来業務の見学 ・薬剤師による薬局や仕事に関する講義 ・歓迎会 (スタッフとの交流会)
9/28	・内科・脳外科病棟での実習 ・外来業務の見学 ・内科・脳外科病棟の医師回診に同行 ・カンボジアにおける感染症やSJHの感染対策についての講義
9/29	・学生による英語での実習学び発表 ・実習のまとめ

【結果】

以下、学生が実習終了後に提出した学びの記録 (「」で示す) の内容について、方法の4. 実習目的1)-4)に照らし合わせて記載する。

- 1) 「日本のような母子手帳はないため、SJHではSunrise Child Noteを作り、子供の成長を見守ってる」、
- 2) 「病院内では(患者の)家族が付き添い、ケアを行っている」「清拭やシャワーの温度は日本よりも低いのが一般的で、国や地域にあったやり方が必要」、
- 3) 「医療スタッフ間でインシデントの共有や薬剤のダブルチェックが行われていた」「職種ごとの連携や情報収集が日本より行われている」、
- 4) 「カンボジアでは理学療法士がリハビリ全般を担っている」「医師の立場が高く、多職種連携の体制構築に課題がある」等であった。この他に、「公的医療保険がなく、経済的負担や医療格差が大きい」「日本と同じでカンボジアでもNCDsが多い」といった、医療システムや経済的問題、疾病構造についても学んでいた。

【まとめ】

学生は現地での医療や看護を体感し、カンボジア人のスタッフや患者との交流ができたこと、学生自身が英語でのプレゼンテーションやディスカッション等で主体的に学ぶことができていた。カンボジアと日本の文化の違いを理解して、対象国の文化や習慣を尊重することの大切さを学んでいた。今後も異文化理解を促し、主体的に学べるプログラムを提供していく。

【利益相反】 申告すべきCOIは無い。